



5/26 開催決定! ぱれっと 35周年記念シンポジウム 速報

～「暮らし」のテーマから、豊かな人と人とのつながりを考える～
 <都市型地域社会づくりに大切なものは何か…>

1983年7月にぱれっとが設立されてから今年で丸35年を迎えます。「ぱれっとを支える会」という任意団体から出発し、2002年3月にNPO法人になり、2013年には認定を取得しました。2016年7月に移転、グループホーム増設に伴い、地域に根差す拠点づくりをテーマに、ぱれっとビルが完成しました。

人間関係が希薄になりつつある地域の中で、誰もがつながり新しい生き方を生み出せる拠点づくり

これは新たな拠点づくりに向け、スタッフ・理事・ボランティア・父母が集まり何度も勉強会を開き、中期ビジョンとして掲げ文章化したものです。

●人間関係づくりに変化

時代とともに人間関係づくりに大きな変化が見られます。携帯端末が普及していなかった時代は、電話や直接人と会って話をするのが当たり前、ポケベルが画期的な時代です。パソコンが一家に1台という(大袈裟ですが)時代が到来し、そこからメールがコミュニケーションツールの主流になりました。スマートフォンの普及率が上がるにつれ、TwitterやLINEを通じて、だれとでも簡単につながる新時代になりました。昔の特撮ヒーローに登場していたテレビ電話が現実になりました。

ぱれっと設立から障がいのある人たちの多様なニーズに対応すべく大事にしてきた「人と人とのつながりから可能性を広げる」というモットーは変わらないものの、たまり場ぱれっとの活動やぱ

れっとの家 いこっとの入居者どうしの関係づくりにおいて、少なからず課題が噴出しています。

●出会いから豊かな人間関係づくり

活動の現場で何か問題が起きたとき、お互い言い合える関係ができているか、利用者やボランティア、入居者や事務局スタッフ同士で話し合うことがあります。どこまで相手のことを理解できているか、人間関係ができているかと聞くと、「人間関係はできています」と返ってきます。しかし、本当の関係の深さは信頼関係が成り立った上で、さらにどこまで踏み込むことができるかではかれるように思います。現代は、障がいのある無しにかかわらず相手を深く理解しようとする姿勢、理解の不足からくる誤解が問題の根底にあるような気がします。

「豊かなつながり・深い人間関係」はどのように構築されていくのでしょうか。5月の総会に合わせて35周年記念イベントとして開催されるシンポジウムでは、地域で障がいのある方に寄り添いながらシェアハウスを運営している方や、台所とリビング空間を多目的に利用できる、地域に開かれたオープンスペースを運営されている方にパネラーとしてお越しいただき、人とのつながり、豊かな人間関係づくりについて、話を掘り下げていきたいと考えています。東京渋谷という都市型地域社会づくりにおいて、私たちはどう手をつないでいくのかを探ります。詳細は4月下旬発送の総会開催告知時と、5月号のぱれっとつうしんでお知らせいたします。お楽しみに!(NPO法人ぱれっと 理事長相馬宏昭)